



山本一太郎氏著  
通貨論第十八編  
交換紙幣論

大藏省  
翻譯課



414  
A1422  
9



第十八編

交換紙幣ノ理論

峯源次郎 訳

大正十一年四月  
天  
隈  
橋  
郵  
寄  
贈

余輩不換紙幣主義ヲ開陳スルノ初メニ當テ既ニ世ノ  
 經濟學者中モニ（通貨）ナル言語ノ用法ヲ論シテ抑モ  
 「モニ」ナル言語ハ特リ之レヲ實價ヲ有スルニ即  
 金貨銀貨銅貨穀物貨種子貨畜貨オノ如キ所謂ニ此約  
 束ニ依ラズレテ自己ニ實價ヲ固有スルノ物品ノミ  
 用ユルヲ得ベシ而シテ實價ヲ有セサルモノニ此ノ言  
 語ヲ用ユルハ大ニ其正鵠ヲ失フモノナリト異論ヲ達  
 ツルモノ多キヲ見タリ  
 抑モ右ノ異論タルヤ任意ニ正貨ニ交換シ得ヘキニ  
 向テハ十分ニ其論鋒ヲ試ミサルモノ、如シ然リト



行シタル約束券ニシテ其持主ノ任意ニ發行者ニ送リ  
貨幣ニ交換シ得ルモノニシタル言語ヲ使用セシ  
トハ決シテ一度モ其例アラサルベシト余ハ信ス云々  
又云ク此ノ言語ヲ此夕毒用スルハ一千八百十年ノ  
金銀地金調査報告ニ拠ラモ其誤謬タルヲ知ルベキナ  
リ(ツ)シ氏著ス所ノ物價史第二章一百五十五葉ヲ看  
ルベシ

註佛國ノ經濟學者ガルニエルクウセルス  
チヒト氏ハ「ペーバー」モニ「紙幣ノ義」トモニ「オ  
フ、ペーバー」(紙ノ通宝ノ義)トノ間ニ區別ヲ設ケ紙  
幣ナル言語ヲ以テ威權ニ基スル政府發行紙幣ヲ  
示シ紙ノ通宝ナル言語ヲ以テ信用ニ基スル銀行  
手形ヲ指示セリ

持主ノ任意ニ交換スルヲ得一々銀行手形ハ即チ  
「ペーバー」オフ、ペーバー」(紙ノ通宝)ニシテ「ペーバー」モ  
ニ「紙幣」ニアラス蓋シ紙幣ナル言詞ハ人之レヲ  
政府ノ發行シタル若シクハ發行ヲ准許シタル紙  
幣ニシテ交換ノ約束ナク或ハ仮令ニ約束アルモ  
之レヲ踐マサリシモノニ付与セリ(ク)ウセルスチ  
ユウ氏著ス所ノ銀行事業論第三百七十葉ヲ看ル  
ハシ(訳者曰ク此段ハ文)

此レ等ノ享義ヲ尋ヌルハ理財論ノ枝葉ニシテ敢テ拘  
泥スルニ及ハスト云ハ、固ヨリ鹵莽ノ暴論タルヲ免  
カレサルヘシ然リト雖モ余既ニ不換紙幣主義ヲ開陳  
スルニ當テ論究セシ如ク「ペーバー」モニ「紙幣」ナル言  
語ヲ用ユルモ決シテ不都合ナル「ナカール」ニシト信ス

且ツ夫レ経済学ノ鼻祖タルアダムスミス氏ノ既ニ用  
 エル所ナレハ其用法ニ是認ヲ得ルヤ復タ鄭重ニシテ  
 輕カラサルナリ又タ此熟語ヨリ誤解ヲ生スルヲ恐ク  
 ハ必ラスアラサルベシ何トナレハ紙ナル形容詞即チ  
 結成詞アリテ其本義既ニ判然タレハ其價アルノ思想  
 其間ニ喚起セサルヤ明カナリ  
 猶ホ又タ余ノ所見ニテハ通宝(モニ)ナル言語ヲ紙幣  
 ニ應用スルヲ不是トスルノ論者一皆ナ(仮令ニ紙ナル  
 形容詞ヲ冠セス單ニ通宝ナル言語ヲ紙幣ニ應用スル  
 ナ攻撃スルモノトスルモ)此ノ主義ニ於テ最モ緊要ノ  
 点ヲ速了忽畧セシモノト云ハサルヲ得ス論者或ハ云  
 ヲ銀行手形一種ノ貸借証券ニ外ナラスト  
 (註) グライム氏云ク銀行手形(按)スルニ銀行手形ハ

即チ銀行紙幣ナリ然レハ前段ナリ紙ノ通宝ト紙  
 幣トノ區別論アルヲ以テ其混雜センヲ恐レテ  
 今マ是レヲ手形ト記スノ其持主ニ於ケルハ猶ホ  
 舗商人ノ帳面ニ於ケル餘賣ノ昏付ト一般ナリ是  
 レ貸借上ニ属ルモノニシテ仕松ヲ迄期セシ負債  
 ノ覺ハ昏キニ外ナラス(同氏著ス所ノ通貨原論第  
 一百七十八葉ヲ看ルヘシ)  
 然リト雖此ハ是レ銀行紙幣ヲ使用スルニ日常賣者  
 ニ於ケル買者ノ關係ト發行者ニ於ケル手形ト持主ノ  
 關係トノ間ノ區別ヲ速了忽畧スルモノニアラサルナ  
 カランヤ今マ夫レ買者ト賣者トノ間ニ銀行手形ヲ取  
 引スル所ヲ以テ論センニ之レヲ物品代價ノ仕松負債  
 ノ辨償ニ使用シテ再ヒ其渡主ニ回歸スルノ關係ナキ

モノニアラスヤ然ラハ則チ之レヲモニシ(通宝)ト云ハ  
スレテ何ソヤ然レハ其持主ト発行者トノ関係ヲ以テ  
觀レバ則チ一種ノ貸借証券ニシテ求ニ應ニ貨幣ニテ  
交換セサルヲ得サルモノナリ  
然リ而シテ今ニ右ノ手形ヲシテ物價上ニ自由自在ナ  
ル購買ノ力勢ヲ有セシムルモノハ持主ト発行者トノ  
関係ナルヲ將タ賣者ト買者トノ関係ナルヲ其理固ヨ  
リシノ関係ニアルヤ明カナリ而シテ吾人ノ此処ニ今  
マ觀察スルヲ要スルモノハ則チ銀行手形ノ物價上ニ  
有スル力勢ニシテ持主ト発行者トノ間ニ於ケル交換  
ノ論題ニ至リテハ自カラ別ニ銀行論ノ領分ニ属スル  
ナリ  
故ニ談紙片(銀行手形)ノ自由ニ人々ノ間ニ流通シ法律

ノカヲ藉ルト藉ラサルト向ハス債主ハ負債ノ辨償  
決算ニ領收シ賣者ハ物品代價ノ仕払ニ請取リ各々之  
レヲ領收スレハ其レ迄ニテ理論上ニ於テモ實際上ニ  
於テモ買者借者ニ関係ナキモノトスルノ間ハ余右紙  
片ヲ以テモニシ(通宝)トセサルヲ得サルナリ  
抑モ此紙片タルヤ或ハ良通宝(ガート、モニ)タルヤ  
リ或ハ惡通宝(ベッド、モニ)タルヤアリトモ此社會一般  
ニ之レヲ通用領收スルカ故ニ即チ他ノ言ヲ以テ之レ  
ヲ釈スレハ交易ノ媒介トシテ人々一般ニ取引流通ス  
ルノ事實ヲ以テ余輩ハ通宝ノ通宝タル所以ノ性質ト  
スルナリ是レ余カ一個ノ私論ニアラストトシレシ氏ノ  
既ニ論スル所ニシテ其著ス所ノ一千八百四十四年英  
國銀行條例ノ評論ニ掲載セリ又タウナルスキ氏ノ如

キモ其著ス所ノ銀行論ニ於テ同説ヲ用ヒヨコルソレ  
氏モ亦タ其著ス所ノ交易論ニ於テ同説ヲ執レリ

(註)

人若シ實際取引通用ノ情勢ヲ觀察スルトキハ

必ラス理論上(モニ)通宝ト銀行手形トノ間ニ立

テシ區別ハ唯々名ノミニシテ實地其流通上ニ其

功用ヲ失ヒ全ク差異ナキヲ知ルベシ是レ余輩ノ

信シテ疑ハサル所ナリ故ニ銀行手形ハ理論上ノ

緊密ニ由テ意義ヲ限リタル(モニ)通宝ニアラス

ト虫比實地ニ於テ尽ク(モニ)通宝ノ性質ヲ有ス

ルモノナリ(ウヲルスキ一氏)

持主ノ請求ニ應シ正貨ニ交換スヘキ銀行手形ニ

シテ永久正貨ト並テ世間ニ流通シ正貨ト同様ニ

負債ノ償還ニ於テ得ヘク百銀ノ取引社會必ラ

ス之レヲ領収セサルヲ得サルモハ則チ純然タル

(モニ)通宝ナリ(ニコルソン氏)

右ノ理由ニ於テ銀行手形ナルモノハ斯ク世間ニ流通

スルノ間ハ必ラス貿易ノ媒介トナルノ益アリ又々世

間ノ流通取引上ニ其代用スル金貨ト精密ニ均シク近

期松ノ定規トナルノ利アリ且ツ又々價直ノ秤量トモ

成ルハ此ノ手形ニシテ此ノ手形ヲ以テ其交換ヲ約束

スルノ物体ニアラルナリ此レ等ノ理由アルヲ以テ

モニ(通宝)ナル言語ヲ銀行手形即チ交換紙幣ニ應用

スルモ決シテ異論ハナカルベシト余ハ思惟ス

(註)

價直ノ秤量云々ニ付テ詳カニ此主義ヲ知ラレ

ト欲セハ第四葉ヨリ九葉迄及ヒ二百八十葉ヨリ

二百九十葉迄ヲ看ルベシ

(註) 此ノ手形ヲ以テ云々ノ説ハ是レホルドマン  
 フールドノ立論ナリ乃チ同氏云ク銀行手形ハ為  
 換手形ト異ナリ特リ貸借ノ証券ニアラス又々左  
 様看倣サル、モノニアラス却テ公衆ノ総允准ニ  
 由リ尋常日用ノ取引ニ(モニ)通宝トシテ領収セ  
 ラル、モノナリ  
 故ニ之レヲ以テ仕払ヲナスニ当リ其仕払ノ請取  
 証ヲ要求セシニ其請取証ハ必ラス(モニ)通宝請  
 取ノ証ニシテ証券手形幾何請取ノ証ニアラサル  
 ナリ(第一)ホロウスノ四百五十二葉ヨリ同シク五  
 十七葉迄ヲ看ルヘシ  
 論者アリ銀行手形若シ(モニ)通宝ナラハ何故ニ  
 手類ハ(モニ)通宝ニアラサル乎ト問ハハ  
 小切  
 テエツキ

余ハ之レニ對テ云ハトス其色別ハ他ナシ唯々小切  
 手ハ持主ト発行者トノ關係ノ以テ論スルモ買者ト賣  
 者トノ取引ヲ以テ論スルモ皆ナ一種ノ貸借券ニ外ナ  
 ラスト且此銀行手形ノ如キハ上ニ開陳セシ如ク買者  
 ト賣者トノ取引ニ於テ實際結局ノ仕払タルヲ見ル而  
 シテ吾人今モ(モニ)通宝ノ用理主義ニ付テ探損スル  
 ノ領分ハ持主ト発行者トノ關係ニアラスシテ買者ト  
 賣者トノ取引ニアルナリ  
 余今モ銀行手形ハ買者ト賣者トノ取引ニ於テ實際結  
 局ノ仕払ナリト論ス而シテ今モ英國ノ法律ニ於テ人  
 銀行手形ヲ請取ニ當リ之レヲ確取シ交換ノ為メ銀行  
 ニ送付スルヲ得ヘキ丈ノ時間ヲ經過セサル内ニ銀行  
 ノ破産スルヲアラハシ之レヲ具請取先ハ掛合ヒ具損害



ヲ償ハシムルノ制規アリ

然リト雖氏「マックロ」子氏云ク此法律ニ由テ仕払ヲ為  
ス人々ノ責任ヲ負フハ僅々二時間ヲ過キルヲ稀ニシ  
テ或ハ長クトモ二日ヲ超ユルヲ稀ナレハ實際ニ於テ  
決シテ其責任ヲ向ハルハ。ア。ア。ア。サ。リ。是。故。ニ。人  
反令ニ發行者ノ到底之レヲ交換シ得ルヲ疑惑スル  
モ障碍ナク容易ニ他人ニ通用シ得ルニ依リ日シテ銀  
行手形ヲ請取ルナリ

註 但シ「マックロ」子氏コ、ニ「ソ」ルント「氏」ノ紙幣

信用論ヨリ引用スルモノナリ

右「マックロ」子氏ノ所論タルヤ我カ読者ノ考案中ニ其確  
実ナル正論タルヲ知ルニ足ルナリ

抑モ吾人平常銀行手形ヲ請取ニ當リヤ反令ニ細心ナ

ルモ自カラ其價造ニ「ラ」サルヲサヘ明了ナレハ此レ  
ヲ以テ満足スルヲ止マリテ其手形ニ付テ敢テ其他  
ノ穿鑿ヲナサル、ナリ況ンヤ吾人之レヲ請取ノ時ニ  
於テ直チニ之レヲ持テ其發行者ノ銀行ニ行キ若シクハ  
代理者ヲ遣シテ之レヲ同所ニ送り正貨ニ交換ヲ試ミ  
テ若シ拒辭セラル、トキハ之レヲ其請取先へ返スヲ  
得ヘキナリト思惟シテ請取ルカ如キ「ハ」實地ニアラ  
サルハ固ヨリ言ヲ待タサルナリ

註 北米合衆國ノ内既ニ數州ニ於テ法律ニ據テ借

主若シクハ買者信義ヲ執リ銀行手形ニテ其償還  
仕払ヲナスニ當リ一度ニ之レヲ請取ルヲ許諾ス  
ルトキハ其時銀行折本スル「ハ」アルモ確實ノ償還仕  
払タルヲ制定セリ

且ツ夫レ該手形ヲ渡ス人ノ責任ハ二三時間乃至二三  
日中ニ消尽スルモノナルニ吾人ハ之レヲ請取ルノ後  
チ數日乃至數週間貯蔵シ置テ消費ノ時ヲ待ツトヤリ  
是レ少シモ請取先キノ責任ニ依拠スルノ意ナキニ由  
ルニアラスヤ故ニ百中ノ九十九迄ハ吾人果々ヨリ箇  
様々々ノ手形ヲ請取リシト云フトハ決シテ明言スル  
能ハサルナリ

〔註〕 フラントニハ氏曾テ英國銀行ノ手形ニシテ殆シ  
ト一百二十五年間流通セシモノ初テ該銀行ニ戻  
歸セシモノアルヲ説ケリ

右ノ理由ニ由リ銀行手形ハ持主ト發行者トノ關係ニ  
於テ一種ノ貸借証券タルニ外ナラスト亟ニ買者ト賣  
者トノ取引ニ於テハ結局ノ仕払ヲ為シ遂クルモノナ

リ

〔註〕 何レノ國ヲ問ハス其國內ニ於テ交換ノ普通媒  
介トシテ自由ニ人々ノ間ニ流通スルモノハ其何  
タルニ拘ハラズ自國(外國ニ出ルトキハ或ハ其流  
通ノ功用ヲ失スルモノナルモ)ニ於テハ之レヲモ  
ニシ(通宝)ト云ハカルヲ得ス之レヲ約言スレハ一  
物品アリ其形ト質トノ如何ニ拘ハラズモニシ(通  
宝)タルノ職掌ヲ為シ遂クルトキハ此レ之レヲモ  
ニシ(通宝)ト確認又サルヲ得ス(アプレシヨシ氏ノ

學術總論ニ見ユ)

右ニ及シテ<sup>小エ切ナ</sup>手ハ之レヲ振出ス人ノ世信力ニ依テ  
人々之レヲ請取ルヲ例規トス其流通ノ區域極メ  
テ狭少ニシテ平生ノ相識若レクハ取引社會ニ限り順

次ノ裏昏ニ由テ通用レ而レテ其表面表面ニ於テ其経  
歴ノ次第ヲ明示スルナリ故ニ小切手ハ特リ銀行ト振  
出人トノ間ノ關係ニ於テノミナラス買者ト賣者トノ  
百般ノ取引上ニ於テモ亦タ一種ノ貸借証券タルヲ免  
カレヌ

〔註〕ロツレ「氏常ニ銀行手形トモニ」(通宝)トノ区劃  
説ヲ固執スト虽氏銀行手形ハ人々ノ間ニ經過ス  
ルニ其授受ノ痕跡(按スルニ裏昏ボノ事ヲ云フナ  
ラン乎)ヲ遺サ、ルノ事實ヲ大緊要ト認ムルヲ見  
ル即チ同氏嘗テ上院ニ出シタル一千八百四十年  
ノ報告ニ於テ左ノ如ク論セリ  
銀行手形ハ大ニ都テノ他ノ手形ト其性質ヲ異ニ  
ス乃チ其持主タルモノハ之レヲ發行シタルヨリ

幾人ノ手ヲ經過シタルモ其レ拘ハラス其發行  
銀行ノ外他ニ交換ヲ求ムル所ナキト許多ノ取  
引ヲ經過シタルモ更ニ合法ノ痕跡(按スルニ裏昏  
ボノ事ナキヲ云フナラン乎)ヲ遺サ、ルト是ナ  
リ  
上文ニ開示シタル區別ニ由テ觀ルルハ明カニ流通  
ルモノハ通宝ノ義ニ於テハ其流通ノ程度ノ主義ナル  
ヲ知ルヘシ

〔註〕此ノ主義ニ付テハ「子」ハ「氏」之レヲ正シク  
論陳セリ乃チ云ク人若シ諸國ノ通貨ヲ論述スル  
トキハ各々其實際ノ情況ヲ詳カニシ「仮令」ニ「甲國」  
ニ於テハ通貨タル功用実カヲ有スルモノトシテ  
通宝ノ部類ニ分等スル能ハサル手形ト虽氏乙國

ニ於テハ之レヲ其分類ニ分等スルヲアルヲ以テ  
正当ナリト信ス之レヲ約言スレハ通貨ノ部類ニ  
属スル<sup>属スル</sup>ナルトノ分等ハ通貨ノ通貨タル所以ノ功用  
ヲ有スルノ度ヲ以テ區別シタル關係ノ事實ニ外  
ナラス決シテ種類ニ由テ區別スル一般不変ノ事  
實ニアラス(貨幣論第六百六十九葉ヲ看ルベシ)此  
註又タ仏文ナリ

右ノ理由何トナレハ銀行手形トモ其発行者ノ評判  
悪シキヲアルトキハ忽チ其流通遲緩シ取引困難ニナ  
リ通用ノ区域益々狭小ニ至リ然レモニ(通宝)ノ部類  
ヲ脱スルニ至ルナリ之レヲ詳言スレハ人々ノ右銀行  
手形ヲ請取ルニ當テ其銀行ノ覺束ナキヨリシテ人々  
必ラス其仕托者ノ保証スルニアラサレハ確取スルヲ

肯セス既ニ其保証ヲ得ルトキハ其仕托者ノ姓名居場  
所及ヒ確取ノ時ヲ記録シ之レヲ其心ニ銘記レ直チニ  
他事ヲ投テ其発行銀行ニ行クニ必要ノ時間若シクハ  
日限中ニ其手形ヲ銀行ニ送り交換ヲ試ミルカ加キ右  
保証ニ向テ主張スルモ都テ法律上ノ手数ヲ緊密ニ為  
シ遂クルヲアリ若シ民心ノ斯ノ如キ情勢ニ至ルトキ  
ハ銀行手形トモ其之レヲ通宝(モニ)ト称スルヲ得  
サルナリ

右ニ反對シテ小切手トモ其流通神速ニシテ其流通区  
域又タ極テ廣ク回帰スルヲ甚ク少ナクシテ實際殆ン  
トモニ(通宝)タルヲアリ<sup>為</sup>換手形ノ如キモ亦タ然リ  
蓋シアルラルトシ及ヒ其他二三ノ論者ハ為換手形  
ヲ以テ銀行手形ト均シクモニ(通宝)ナリト主張セ

就中ブルルトン氏英國ノリンカスヤ<sup>カ</sup>及ヒ「ウエス  
ト、ライデング、オフ、ヨーク」及ヒ其他製造地方ノ慣習ヲ  
引用シテ右各地方ニ於テハ五封度以下各金額ノ為換  
手形ヲ振出し多年間之レヲ取引上ニ使用スルカ故ニ  
之レカ為メ銀行手形ハ殆ント流通上ヨリ駆逐セラレ  
タルヲ論陳セリ  
右ブルルトン氏ノ異論ニ付テハ「マックロー」氏ノ評  
論概シテ其正鵠ヲ得タルモノナレハ今マ之レヲ左ニ  
引用ス  
夫レ為換手形ナルモノハ殆ント皆ナ若干年月ヲ經過  
スルノ後チ交換スルノ約束ニテ振出スモノナリ故ニ  
之レヲ請取ル人モ「通宝」欠之セサル以上ハ常ニ之  
レヲ保有シテ此レヨリ生スルノ利息ヲ得ント勉ムル

ナリ然レハ銀行手形ト為換手形トノ間ノ重大ナル差  
異ハ即チ各人若シ為換手形ヲ他人ニ渡ストキハ必ラ  
ス之レニ裏合キス而シテ其交換ニ付テハ自カラ其責  
任スリルトン氏云ク為換手形ノ流通スルモノハ  
則チ之レヲ請取ルモノ、其信用ヲ商業上其固有ノ通  
商者ナル最終ノ<sup>裏</sup>合人ニ置クニ職由ス然リト雖モ銀行  
手形ノ流通スルハ之レヲ取引スル人ノ如何ニ拘ハラ  
ス其発行者ノ名聲高ク知ラレ公衆ヲシテ信用ヲ其紙  
幣ニ保タレムルニ由ルナリト故ニ人銀行手形ヲ請取  
ルニ當テ殊更ニ思考スルヲハアラサルベシト雖モ為  
換手形ヲ仕立ニ請取ルニ當テハ常ニ深考熟思ヲ要ス  
ルヤ疑ヲ容ルヘカラサルナリ、何トナレハ銀行手形ハ  
亦ニ應シ損失ナク直チニ交換スルヲ得ルニ為換手形

一若干時限ヲ經ルニアラカレハ交換スル能ハス又タ  
銀行手形ハ之レヲ他人ニ渡スニ於テ自カラ其交換ノ  
責ニ任スルヲテシト至氏為換手形ハ之レヲ渡ス者各  
々自カラ其責任ヲ負ハサルヲ得ス又タ銀行手形ハ其  
流通ノ区域廣クシテ特リ商業取引社會ニ通用スルノ  
ミナラス婦女小兒及ビ勞役者ボノ如キ多ク之ヲ拒辭  
スルノ力ナク又タ其發行者ノ資力ニ付テ正當ノ決案  
ヲ下タスニ由ナキモノ、内ニモ通用スルナリ、然ルニ  
之レニ及シテ為換手形ヲ取引スルモノハ僅々ノ例外  
ヲ除クノ外ハ皆ナ事務ニ從事スル成人ニシテ之レヲ  
請取ルヨリ或ハ自己ニ蒙ムルハキ險害ヲハ十分ニ知  
了スル人々ニ外ナラサルナリ

〔註〕ウロウスキ<sup>1</sup>氏ノ嘗テ引用シタル日耳曼ノ經

濟學者ハルトウ<sup>2</sup>ク、ハルツノ説ヲ觀ルニ殊ニ人多クハ銀行手形ヲ請取ラ其手形ノ果シテ實ニ價格アルヲ知ラス又タ實地之レヲ知ル能ハサルモノナルヲ喋々論陳セリ

前文ノ理由アルヲ以テ為換手形ハ仮令其額面ヲ小額トナシ一種特例ノ條規ヲ設テ其流通ヲ便易ニシ以テ公眾ヲシテ之レヲ使用スルニ慣習セシムルヲアルモ決シテ此處彼處ヲ論ヤス今日明日ヲ問ハス流通スルノ便宜ヲ達スルニ至ラサルヘシ且ツ其元來ノ渡シ考ノ方ヘ回歸スルノ不便ヲ脱シ以テモニ通室ノ性質ヲ得ルニ至ルヲナカルヘシトハ余ノ敢テ断言スルヲ欲ヤサル所ナリ

余ノ意見ヲ以テスレハ「ウ」氏ノ説ナル英國銀行巨

額紙幣ハ「モニー」(通宝)ナリト虽氏小額紙幣ハ大ニ其「モ  
 ニ」(通宝)ノ義ヲ異ニスト云フモ慥ニ一理アルヲ知ル  
 ナリ  
 抑モ巨額紙幣ト小額紙幣トノ間ニ於テ世間ニ流通ス  
 ル時限ノ長短請取渡シノ自由不自由及之レヲ使用  
 スル取引度数ノ多寡ニ驚愕スヘキ程ノ大ナル差異ア  
 ルヲ見ル

「レビ」氏ノ説ク所ニ據レハ銀行紙幣ノ(註ヲ見ルヘシ)  
 生命ハ之ヲ日数ヲ以テ算スルニ左ノ如シトス

一千八百四十四年	一〇五	八七	三八	一四	一二
一千八百七十二年	七九	六四	二六	八	九
	五封度	十封度	二十封度	二百封度	一千封度

「レビ」氏著ス所ノ大英商業史ノ第四百八十一葉ヲ見

ルヘシ

註 英国銀行ハ其発行紙幣ノ回歸スルヲアレハ決シ  
 テ之レヲ再度発行セズ乃チ其紙幣ノ銀行ニ回歸ス  
 ル片ハ之レヲ廢除シ七箇年間蔵メ置クノ後之レ  
 ヲ燒棄テルモノトス而テ全數ヲ合セテ一度ニ之レ  
 ヲ燒棄テス時々屢々新紙幣ノ発行高ニ應スル程ノ  
 額數ヲ廢減スルモノナリ

ハンキー氏ノ銀行論第六十二葉ヲ見ルヘシ  
 都テノ銀行紙幣ヲ以テ尽ク「モニー」(通宝)ト見做スハ財  
 理ヲ講究スルニハ極メテ都合善シト虽氏余輩ノ茲ニ  
 等閑ニ看過シ能ハサルモノアリ乃チ「モニー」(通宝)ノ額  
 數ハ同一ニシテ同時限中甲国ニ於ケルヨリモ乙国ニ  
 於テ交易ノ巨多ヲ著ク為シ遂クルヲアルカ如ク同国

同地か於テモ其金額ノ同一ナルニ拘ハラス甲額面  
ノ銀行紙幣若干高ハ交易上ニ働ヲ為ス乙額面ノ銀  
行紙幣同高ヨリモ著シク超過スルヲアルモノ是レナ  
リ

アダムスミス氏ノ如キモ此區別ノ緊要ナルヲ論セリ  
乃チ同氏云ク何レノ國ヲ問ハス各國ノ取引流通ハ之  
レヲ二種ニ區別スルヲ得ヘシ即チ甲ハ商人ト商人ト  
ノ間ノ取引流通ニシテ乙ハ商人ト消費者トノ間ノ取  
引流通是レナリ

夫レ紙幣ト貨幣トヲ論ヤス甲ノ取引流通ニ使用セラ  
ル、額面ノモニ「通宝」カ時アリテ乙ノ取引流通ニ使  
用セラル、トアリ又チ乙ノ取引流通ニ使用セラル、  
額面ノモニ「通宝」カ時アリテ甲ノ取引流通ニ使用セ

ラル、トアリト虽氏甲乙共ニ其取引流通ノ時ヲ永久  
同フスルモノナレハ到底甲乙各其固有一種額面ノ「モ  
ニ」通宝ヲ其取引流通上ニ要スルヤ疑ヲ容ルベカラ  
ザルナリ

抑モ紙幣ハ其額面ノ制規ニ由リ其流通ノ區域ヲ諸商  
人ノ間ニ局制スルヲ得ヘシ或ハ之レヲ商人ト消費者  
トノ間ニ擴充スルヲ得ヘキナリ例之ハ倫敦府ニ於ケ  
ル如ク十封度以下ノ銀行紙幣ヲ流通セサル處ニ於テ  
ハ巨額面紙幣ノ流通スル地ヲ云フナリ紙幣流通ノ區  
域ハ僅々諸商人ノ間ニ止マレリ故ニ一介ノ消費者ア  
リ十封度銀行紙幣ヲ得ルヲアルモ後チニ其ノ商店ニ  
就テ價直上「シルリンク」ノ品物ヲ買フハ直チニ其店  
ニ於テ之レヲ兩替セサルヲ得サルヘシ然レハ消費者



猶ホホク紙幣ノ四十分ノ一ヲ用費セサルニ其紙幣ハ早ク己ニ商人ノ手ニ回歸スルヲ見ルナリ然リト虽  
氏「スコットランド」ニ於ルカ如ク紙幣ノ額面僅小ニシテ  
二十「シリリング」ノ如キ小額ノ銀行紙幣ヲ發行スル處  
ニ於テハ紙幣流通ノ區域甚タ廣大ニシテ著シク商人  
ト消費者トノ間ニ擴充スルナリ

葉ヨリ引用ス

「アダム、スミス氏著ス所ノ富国論第一卷三百二十三  
ツ」ク氏ハ右「スミス氏」ノ説ヲ引用シ且ツ之レニ評論  
下シテ云ク小額面ノ銀行紙幣ハ零賣買小取引ノ目  
的ヲ達シ大額面ノ銀行紙幣ハ重ニ商人ト商人トノ間  
ノ取引ニ使用セラル、ナリ而シテ紙幣ノ間ニ斯ノ如  
ク二種ノ區別アルヲ明示シタルモノハ蓋シ「アダム、ス

ミス氏」ヲ以テ嚆矢ナリト余ハ信スルナリ今日ニ至リ  
テハ諸高人ノ間ト虽氏家畜商及ヒ馬商ヲ除クノ外皆  
一般ニ銀行保証券ヲ使用シ及ヒ小切手記簿ヲ代用ス  
ルカ故ニ大額面銀行紙幣ハ殆ント流通セサルナリト  
同氏著ス所、一千八百三十九年ヨリ四十七年ニ至  
ル物價史第一百五十九葉ヲ見ルヘシ  
註 一千八百五十三年ヨリ五十五年ニ至ル迄英國銀  
行ノ頭取タリシ「セユウバルト」氏嘗テ一千八百五十  
七年撰定ノ調査委員ニ明証スルニ左ノ事實ヲ以テ  
セリ  
即チ去ル五箇年間ニ五封度及ヒ十封度銀行紙幣ヲ  
増加スルニ二百萬封度ニシテ五十封度ヨリ一千封  
度ニ至ル大額面銀行紙幣ヲ減少スルヲ又々同シク

二百萬封度ナリ然リ而ノ其総額ニ至リテハ少シモ  
増減ナシト虽氏右変更ノ為メニ其購買力ハ著シク  
増進セリ

世ノ經濟記者多ク為換手形及ヒ小切手ヲ以テ銀行紙  
幣ト均シキモニ「通宝」ナリト主張スルノミナラス銀  
行預金証票ヲ以テ又々同シクモニ「通宝」ノ部類ニ分  
類ス而シテ其斯ノ如ク分類スルノ理趣ハ即チ銀行預  
金証票ハ之レヲ負債ノ償還ニ用ヒラレ又々物品ヲ買  
フニ使用セラルルカ故ニモニ「通宝」ノ職掌ヲ為シ遂  
シルナリト云フニアリ

註但シコレデラクエト氏同氏著ス所ノ通債銀行  
論第一百九十一葉ヨリ同シク九十四葉迄ヲ見ルハ  
シ及ヒ「アマサ、ウヲーク」氏同氏著ス所ノ富論第一

百五十一葉ヨリ同シク五十四葉迄ヲ見ルハ右  
銀行預金証票ヲ以テモニ「通宝」ニ分類スルノ説ヲ  
主張シツ「ク」氏同氏著ス所ノ物價史第一編一百五  
十二章ヨリ同シク五十三章迄第二編三百三十七章  
ヨリ同シク三十八章迄第三編一百二十三章ヨリ同  
シク二十四章迄及ヒ二百五十六章ヲ見ルハシ「ニ」  
ル「シ」氏同氏著ス所ノ交易論第四十一葉及ヒ四十  
二葉ヲ見ルハシ及ヒ「セルドケバースト」氏同氏著  
ス所ノ雜說第一百九十九葉二百葉及ヒ三百四十四  
葉ヲ見ルハシノ如キハ皆其反對論ヲ主持セリ  
然リト虽氏モニ「通宝」ニアラスシテモニ「通宝」ノ職  
掌ヲ為シ遂シクルノ理ハアラスナリ蓋シ吾人ノ既ニ  
上文於テ觀察ヤシ如ク今一個ノ物品アリ之レヲモ

ニ「通宝」ニ分類スル所以ノモノハ唯モ「通宝」  
モ「通宝」タル所以ノ職掌ヲ為シ遂クルニ由ルナリ  
抑モ「通宝」ナルモノハ普ク人々ノ間ニ通用シ負  
債ノ償還ニ使用シ買物ノ仕拂ニ使用シ決シテ回歸ノ  
不便ナキモノナリ  
銀行預金法ノ如キハ唯々大額貸借ノ決算ニ於テ互相  
勘定シテ消却ヲナスノ便ヲ達スルニ過キス勿論該勘  
定消却ハ右銀行預金法ニ據ラサルハ必ラス交易ノ  
実媒介ノ助ケヲ藉ラサルヲ得サルヘシト虽モ該預金  
証票ハ決シテ斯ノ如キ媒介ニアラサルナリ之レヲ約  
言スレハ右預金証票ハ各種ノ貸借証券ノ如クモ「通宝」  
ノ使用ヲ省クト虽モ「通宝」ノ職掌ヲ為シ遂  
クルモノニ外ナラサルナリ

英国ノ租税院券合衆国ノ大蔵省券ノ如キハ租税院若  
シクハ大蔵省ノ准許通券ニシテ政府ノ收税ニモ請取  
ルモノナルカ故ニ若シ之レヲ小額面ニシテ發行スル  
ハ普ク人々ノ間ニ流通シ諸仕拂及ヒ負債ノ償還ニ  
使用シ嘗テ回歸ノ不便ナク以テモ「通宝」ノ功用ヲ  
ナスヘシ之レヲモ「通宝」ノ部類ニ分等スルモ可ナ  
リト云フカ如キハ一應理ナキニアラサルカ如シ英王  
「ウヰリアム」第三世統御ノ時ニ當テ五封度及ヒ十封度  
ノ如キ小額面ノ租税院券ヲ發行スルヲ著シキ頼高  
達セリ「ブラハク」氏云ク當時小額面租税院券ヲ發行シ  
タルカ為メ大ニ貧民ノ間ニ日用ノ必需品ヲ交易スル  
至要ノ品約ヲ達スルニ便易ナルヲ得タリト又々云ク  
該租税院券ノ當時世間ニ流通セシ「ノ」ノ輕易ナリシヤ

「モニ」(通宝)ト均シク百般ノ仕拂ニ通用セリト  
然リト虽氏大蔵省券若シクハ租稅院券通例皆ナ利息  
ヲ有ス既ニ利息ヲ有スルハ之レカ為メ大ニ其利  
ノ度ヲ減少スヘシ其利息累積シ成熟ノ期ニ接近スル  
ニ從テ逐次世間流通ヲ辞シ到底尋常有利株券ト比  
キニ至ルヘシ故ニ斯ノ如キ証券ニシテ大額面ナルハ  
ハ常ニ少シモ「モニ」(通宝)タルヲ得サルナリ  
斯ク論シ来レハ速了ノ讀者ハ熟思細考セスシテ或  
既ニ云ハン右ノ如キ區別ヲ論究シ去レハ到底「モニ」  
(通宝)結局ノ定義ヲ得ル能ハサルノミニシテ何ノ益カ  
アラシ又タ為換券及ビ小切手モ時トシテ往々處々  
モニ「(通宝)トナルヲアリ銀行紙幣モ時トシテハ「モニ」  
(通宝)ノ部類ヲ離レ出ツルヲアリトセハ如何ニシテ

吾人ハ「モニ」(通宝)ハ何物ナル乎何物ハ「モニ」(通宝)ナ  
ル乎ヲ知り得ヘキヤト  
故ニ又云ハン金銀ノミニ「モニ」(通宝)ナリ其他ノ物ハ皆  
「モニ」(通宝)ニアラスト断言シ貿易上ニ於テ代用スル  
各種紙幣ニ至テハ別ニ他ノ言詞ヲ用ユルノ穩当ナル  
ニ如クモノアラシヤト  
然リト虽氏仮令ヒ令吾人特リ金銀ニ就テ論究スルモ  
猶ホ精密ニ「モニ」(通宝)ナル所ノモノト「モニ」(通宝)ナ  
ラサル所ノモノトヲ其内ニ擧示スルヲ免カレサレテ  
リ盖シ金銀貨幣ハ常ニ必ラス二種ノ限リナキ大例外  
ノ事ニ遭遇セサルヲ得サルナリ而シテ其大例外ノ事  
タルヤ否如シ  
第一 金銀ハ絶ヘス他ノ商品ト交易セラル、モノナ

リ其場合ニ於テ之レヲ「モニ」(通宝)トシテ請取ニアラ  
ス尋常一般ノ商品トシテ請取ルモノナリ夫レ斯ノ如  
キ交易ニ於テ其金銀ハ假令既ニ貨幣ニ鑄造セシ  
ナルモ決シテ「モニ」(通宝)ニアラス其面ニ造幣局ノ鈴  
印ヲ有スルニ拘ハラス通常ノ一商品ニ外ナラス而  
テ之レヲ請取ル人々ノ意思モ亦々其之レヲ請取リシ  
時ノ俚ノ名ト形ヲ存シテ速ニ賣却セントスルノ目的  
ニアラサルナリ例之ハ器具製造ノ地金ニ用ユルカ如  
キ消費ニ供セントスルニアルナリ

第二 何レノ國ヲ問ハス各国々内金銀貨幣ノ内著大  
ニシテ常ニ確知スル能ハサル程ノ額數ハ或ハ蓄藏  
ラレ或ハ準備ニ具ヘラレ以テ負債ヲ償還スルノ用ヲ  
ナサス買物仕拂ノ運動ヲ為サバカ故ニ又「モニ」(通

宝ニアラサルナリ

夫レ「モニ」(通宝)ナル乎將々「モニ」ナラサル乎ノ論題  
ハ其物ノ何種類タルヲ論セス全ク流通ノ度(等級)ノ論  
題ナリ即チ其交易上ニ使用セラル、區域ノ廣狹流通  
ノ難易ノ程度階級如何ニ由テ或ハ「モニ」(通宝)ナルア  
リ或ハ「モニ」(通宝)ナラザルモノナリ故ニ普ク人々ノ  
間ニ流通シ公衆一般ノ嘉納是收スル所トナリ人々常  
ニ其賣物ノ代リニ異議ナク之レヲ收領シ又々何時ヲ  
問ハス其買ハント欲スルモノアレバ之レヲ出シテ自  
由ニ其品物ヲ購買シ得ヘキ自由自在ノ購買力ヲ有ス  
ル物品ハ則チ余輩之レヲ「モニ」(通宝)ト称スルナリ  
又々吾人ノ既ニ上文ニ於テ觀察セシ如ク二個物品  
同時ニ「モニ」(通宝)ノ功用ヲナスコアリ或バ一個物品

ハ其流通ノ區域擴充シ將ニ普通タ貨タラントスルノ  
情勢ナルニ其時迄普通タ貨タリシ他ノ一個物品ハ洋  
次其流通ノ區域ヲ局制シ將ニ公衆一般ノ嘉納是致  
失ハントスルヲア、而シテ其ノ時ニ於テ二物品ノ内  
何レカ社會ノ「モニ」通宝タル実度ヲ有スル大ナリ  
ヲ明言スルハ能ハサル所ナリ  
又々他ノ其ノ時ニ於テ二物品ノ内何レカ「モニ」通宝  
ニシテ何レカ「モニ」通宝ニアラサリシヲ明言スレ  
モ亦タ難事ト云ハサルヲ得サルナリ  
斯ク論シ来レバ大ニ通貨流通測算統計表ノ信任ヲ傷  
スヘシト虫居之レカ為メ「モニ」通宝ノ「モニ」通宝  
ル所以ノ職掌ノ本義上若シクハ其緊要上ニ毫モ疑惑  
ヲ生セサルナリ又々緊密確實ニ該職掌ノ本義ヲ辨論

スルヲ妨ケサルナリ  
世間ノ論者多ク理財上要語ノ定義ニシテ例外ヲ色カ  
レサルモノニ就テ喋々難論スルアリ是レ許多ノ理財  
書ニ於テ之レヲ觀ルノミナラス頗ブル大家ノ著述ニ  
於テモ亦タ此弊ヲ免カレサルナリ  
註論者多ク銀行紙幣ヲ以テ「モニ」通宝ナリト主張  
スルト虽モ嘗テ銀行紙幣ト為換手形若シクハ約束  
券トノ間ニ判然タル區界ヲ確定シ能ハサルモノノ、  
如シ論者アリ銀行紙幣ハ裏書ヲナサスシテ普ク人  
々ノ間ニ流通スレナリト明言セハ裏書ヲナサバ  
ノ為換手形ハ同シク世間ニ普通シテ「モニ」通宝  
ルベシト云ハサルヲ得サルベシ云々  
同氏著ス所ノ宝貨論第五十九葉ヲ見ルベシ

「チバ」ル氏ノ如キモ余輩ノ既ニ縷々論述セシ主義  
即チ銀行紙幣ハ「モニ」(通宝)ナル乎否ラサル乎ノ論是  
ヲ辨論スルニ当テ術語定義ノ例外ニ拘泥スルノ爲  
ヲ露ハスヲ免カレ然リト虽且経済学ニ於テ最モ緊  
要ナル區別ハ物品ト勤勞ト人トノ諸部類ヲ分類スル  
ノ區別トス蓋シ此種ノ分類ニ於テハ各物各個ノ何レ  
ノ部類ニ属スルヲ確定シ能ハサルモノ少ナカラサル  
ナリ理財上定義主義ノ紛論ニ就テハ「ゲル子」氏ノ説  
ヲ以テ最モ正当ト信スルナリ  
事物ノ定義ニ就テ世人ノ討論辨議スル所ヲ觀ル其  
定義ノ基ツク処ノ事物ノ性質ハ等級ノ如何ニ由テ交  
ヤサルノ性質ニアラサルベカラスト云フ臆断ニ根拠  
スル異論ヲ以テ最モ多シトス故ニ異論者アリ或ル定

義ニ向テ異論ヲナスハ必ラス先ツ右ノ如ク臆断シ  
置キ進テ談定義ノ區界線内ニ包括スル事物ハ其外  
ノ事物ト明ラナニ區別スル能ハサルヲ論述シ而義  
不定ナル事物ノ例ヲ引キ談定義ノ作者ニ向テ右事物  
ハ何レノ部類ニ属スヘキ乎ヲ難問スルニ至ルアリ  
夫レ斯ノ如キ異論タルヤ余ノ考ル処ニ由レハ經濟學  
及ニ其他百科ノ學ニ於テ學術上要語ノ定義ヲ經營ス  
ルニ當リ避クヘカラサル事物自然ノ情勢ヲ無理ニ強  
テ駁禦スルモノト云ハサルヲ得サルナリ  
夫レ理財政理ノ諸科学ニ於テ用ユル要語ノ定義ハ事  
物自然ノ分類ニ基テ確定ス而シテ其定義ニ其事物  
等級ノ餘裕ノ許スハ事物自然ノ本体ナリ是故ニ論旨  
アリテ定義ノ區界線上ニ存スルカ若シクハ存スヘキ

ニ似テ内外何レニ属スルヲ決シ難キ事物ノ例ヲ引キ  
以テ其分類スルニ定義ニ向テ異論ヲ試ムルヲアルモ是  
レ正当確實ノ異論ニアラサルナリ如何トナレハ定義  
ニ斯ノ如キ例外ヲ生スルハ事物ノ自然ニ於テ避クベ  
カラサルノ情勢ナレバナリ然リト虽氏此情勢アルニ  
拘ハラズ定義ヲ以テ事物ヲ區別シ而シテ其區別カ其  
區界線ノ内外ニ在ル事物ヲ認ムルニ緊要ナル片ハ則  
チ其分類ハ確實ニシテ其定義ハ正当ノモノト云フハ  
ニ  
(ケル子ス氏著ス所ノ経済学本体立言法論ヲ引)  
抑モ交換紙幣ヲ發行スル所以ノ理由ハ二種ノ利益  
ルニ由ルナリ乃チ第一紙幣ハ金貨ニ比シテ大ニ便利  
ナリ又々銀貨ニ比スレハ猶ホ一層大ニ便利ナルアリ

註カエルス氏其近頃著セシ所ノ銀貨論ニ於テ金  
貨ト均シク無限合法貨幣ニ銀貨ヲ復位スルヲ默撃  
スル論ヲ掲載シ喋々諍詭ヲ雜ヘテ銀貨ハ当時ノ購  
買力ニテハ甚々運搬ニ煩勞困難ニシテ「モニ」通宝  
トスルニ適當ナラサルヲ説キ且ツ云ク将来巨額  
ノ金銭ヲ取引スル人々ハ皆十車ヲ備ヘテ以テモ  
「通宝」ヲ運搬セサルヲ得サルニ至ランモ亦タ測リ  
知ルベカラサルナリト嗚呼老婆心モ亦タ甚々我ク  
エルス氏ノ此異論ニ答ヘンニハ足下幸ニ慮ヲ勞ス  
ル勿レ銀行紙幣アリテ既ニ二百年間世ニ使用セラ  
ルヲ得タリト云ハ充分ナリト信ス  
「バリン」金貨一千個ノ重量ニ<sup>金量</sup>二十一磅強アリ同金額ノ  
銀貨ハ其十五倍乃至十六倍ノ重量ナリ貨幣ニシテ斯



ノ如キ巨額ニ至ル中ハ其取扱運搬ニ甚シク煩勞困難  
ルノミナラス其有金ノ存在ヲ悪人ニ注目セラレ、  
ヲ免カレサルヲ以テ往々強盜欺騙オノ禍ニ罹ル  
リ  
交換紙幣ヲ發行スル所以ノ第二ノ理由ハ之レヲ貨幣  
ノ鑄造ニ比シ發行者ニ取リテ大ニ廉ナルニ由ル如ク  
トナレハ交換ノ為メ準備スル貨幣ノ額數ヨリモ著シ  
ク巨額ノ紙幣ヲ發行流通スルヲ得ヘキハ固ヨリ明確  
ニシテ疑ヲ容ルベカラス而シテ紙幣ノ發行者タルモ  
ノハ右ノ如ク貨幣及ヒ金銀塊ノ準備金額ニ超過  
ノ發行紙幣アリテ之レヲ貸附ケルヨリ利息ヲ得テ利  
益スルヲ甚々大ニナリ  
世論昏々斯ノ如ク發行シクル紙幣ハ貨幣ヲ代理スル

ト云フト雖モ余輩ハツトク氏同氏著ス所ノ  
物價史第三編二百二十四章ヲ見ルヘシ及ビ「  
氏ノ説ニ從ヒ代理ナル言詞ノ如キ曖昧不定ノ言詞ヲ  
誤用スルヲ拒絕セサルベカラス」  
氏云ク余、  
通債ニ於テ代理ナル言詞ヲ用ユルヲ是認シ能ハサル  
ナリ如何トナレハ余決シテ其言詞ノ意義ヲ解スル能  
ハサレバナリ此言詞タルマ余其一定ノ意義アルヲ知  
ラス又々余ノ想像スル所ニテハ他人ト雖モ皆一定ノ  
意義ヲ該言詞ニ觀ル能ハサルヘシト信スト  
同氏著ス所ノ通債原論第六十九葉ヲ見ルハ  
若シ紙幣ノ發行高ヲシテ之レヲ交換スルニ必要ナル  
貨幣準備ノ額ニ限ルモノトスル中ハ其發行ノ為メ  
全社會ニ損益如何ノ問題ハ貨幣ヲ使用シテ其摩擦ス

ル高ト貨幣ニテ交換スル約束ノ紙幣ヲ發行流通スル  
實用トノ間、差異如何ニ因據ス夫レ一方ニ於テ貨幣  
鑄造術進歩ノ度ト他ノ一方ニ於テハ彫刻製紙活版術  
進歩ノ度トノ如何ニ由リ紙幣ヲ以テ金貨ニ代用スレ  
ノ費用多キヲ致スフ或ハ無キニシモアラザルヘシト  
雖モ是レ一時ノ情勢ナレハ槩シテ年々摩耗ノ為メ金  
塊ヲ損込スルノ高ハ著シク紙幣發行ノ費用ニ超過ス  
此ヲ以テ交換準備貨幣ノ全額ニ紙幣ヲ代用發行流直  
スレバ必ラス一國全体ノ有益トナルヲ知ルナリ  
然リト雖モ令私立會社ニシテ紙幣ヲ發行スルモノ  
利害ヨリ特ニ推考スルニ斯ノ如ク紙幣ノ流通ヲ持統  
スルノ費用ハ彫刻活版發行ノ総費ヲ自己ニ支辨  
ヲ以テ著シク多キヲ加フルカ如シト雖モ近代銀行事

業ハ実験ニ由テ其發行紙幣交換ノ要求ニ對應スルニ  
十分ナル貨幣ノ準備高ヲ明知シ得タレハ常ニ其割合  
ノ貨幣及ヒ金銀塊ヲ準備スレハ十分ニシテ取テ必  
スシモ紙幣ノ發行高ト均シカテシムルニ及ハズ故ニ  
私立銀行ノ利益モ亦タ甚タ大ナルヲ得タリ  
アダムスミス氏論述シテ云ク各國ニ流通スル金銀貨  
幣ハ猶ホ大道ノ如シ其地方ノ草及ヒ穀物ヲ市場ニ運  
搬スルモ自己ニ其一粒一塊ヲ生スル能ハサルナリハ  
レ夫レ銀行事業ノ構造タルヤ之レヲ甚シク比喻ス  
レハ恰モ空中ニ一程ノ貨車道ヲ設クルト一畝ニシ  
國土ヲシテ其大道ノ大部分ヲ変シテ善良ノ飼草及  
穀田トナシ以テ著シク国内ノ田畑ト勤勞トノ生産  
歲額ヲ増進セシムルノ功用アリ故ニ銀行紙幣ノ政策

ハ必ラス國家ノ貿易工業ヲ煥發スルノ功アルヲ疑ヒ  
シ然リト虽氏「テリダラス」ノ蠟翼ノ如キ紙幣ニ依  
支柱維持セラル、ノ貿易工業ハ決シテ金銀ノ鞏固  
ル道ヲ運行スルモ、如ク確實安全ナル能ハサル  
リ

「スミス氏著ス所ノ富國論第一編三百二十一章ヲ  
用ス

右ハ「アダムスミス」氏ヨリ引用スル所ニシテ其局未  
論者ハ交換紙幣ノ常ニ多少免カレ難キ災害即チ銀行  
ニ向テ其紙幣交換ノ為メ再走恐慌スルノ危害ヲ發ス  
終ニ其準備資<sup>幣</sup>ヲ出シ盡スニ至ルヲアルヲ指示スル  
モノナリ古昔「イカラス」ハ其父「テリダラス」ト共  
ヲ翱翔シ大空ニ飛ヒ揚リ甚シク太陽ヲ遠接シタルヨ

「全輩」ハ「ロルドベリコン」ノ註譯ニ從ヒ之レヲ競争ノ  
火劇ニルヲ形容スルモノト思惟ス其ノ為メ其蠟翼  
羽翼忽チ鎔解、空中ノ大道ヨリ墜落シ海中ニ溺死ス  
ルニ至レリ其海ハ猶ホ今日其人ノ名ヲ有セリ嗚呼斯  
如キ災害ハ人間社會ニ發生セサルヲ保シ難キモノ  
ナリト云フニ止マラス夫レ所謂ル空中ノ貨車道ニ發  
起シタル失敗危害ハ合衆國ノ小歴史中ニ於テモ固ヨ  
リ少シトセズ恰モ我國ノ各海各岬ニ尽ク記念名ヲ与  
フルカ如ク其レ甚大ナリ  
夫レ實際不慮ノ福運ヲ僥倖ニ一部分ノ貨幣準備ニ去  
テ銀行紙幣ヲ發行スルハ其情勢ニ於テ常ニ稍ヤ危險  
ナルヲ免カレ難シト虽氏之レカ為メニ紙幣發行銀行  
事業ノ社會ニ益スル功績ヲ傷スル程ノ事ニ至ラザル

ナリ  
抑モ社會ニ蒸氣車及ヒ蒸氣船ヲ使用スルトトナ  
ヨリ(此處註ヲ付ス)人間社會ハ皆ナ此力ニ由テ時々省  
キ力カヲ増シ利益ヲ得タリト虽モ時々衝突爆發ノ虞  
害アルヲ免カレス紙幣發行銀行事業カ其支配人ノ失  
措若シクハ先見ノ明ナク抑制シ能ハサルノ理由ヨリ  
惹起スルノ禍害ハ蓋シ右汽車汽船ノ衝突爆發ニ均シ  
キナリト云フモ決シテ誣言ニアラサルヘシ

注「注」ヲロースキー氏著ス所ノ銀行論第三百八十五葉  
ヲ見ルベシ

抑モ紙幣ノ發行高ト貨幣準備額トノ間ノ割合ハ如何  
ナル割合ニスルヲハ損益ヲ平均シテ紙幣發行ノ政  
策ニ最大ノ純益ヲ与フル乎ハ是レ純乎タル銀行論ニ

属スヘクシテ本章ノ主旨ニアラス守舊論者「ロールド」  
ヲバ「ストーン」本卷ニ於テ此後屢々同氏ノ説ヲ引用ス  
ハ英國ノ如キ運運ノ神速ナル国ト虽モ貨幣ノ準備額  
ハ紙幣發行高ノ三分ノ一ニテ十分ナリト論述セ  
同氏著ス所ノ雜誌第四百五十五葉及ヒ四百五十六  
葉ヲ見ルヘシ

抑モ右三分ノ一準備金額ハ歐洲諸国ノ合法最小準備  
高トシテ實際ニ舉行スル準備高ナリ然リト虽モ紙  
紙幣ト準備貨幣トノ間ノ割合ハ時々古今ト場所ノ彼  
レ此ニ由テ大ニ差異ヲサレテ得サルカ故ニ此  
制規ヲ以テ諸銀行ニ應用スルハ決シテ能ハサル所ナ

註「註」ヲロースキー氏ハ三分ノ一準備貨幣ノ制規

試テ左ノ如ク論述ス

夫レ銀行若シ紙幣ノ發行ニ謹慎ナラサルハ三  
分ノ一準備貨幣モ未タ十分トスルニ之ラス然レバ  
之レニ反シテ銀行若シ謹慎忠實ニ發行事業ニ保  
スルハ石三分一ノ準備金モ之レヲ不易ノ制規ト  
シテハ過度ナルモノ、如シ  
故ニ準備金ノ割合ニ就テ凡百ノ銀行普通一般ノ制  
規ヲ定ムル能ハスト虽モ實際ノ經驗ト觀察トニ由  
リ各貿易所各銀行ニ於テ別々ニ其發行紙幣ニ對應  
セサルヘカラサル準備貨幣ノ額高ヲ確知スル  
タリ  
同氏著ス所ノ銀行論第二百〇二葉ヨリ引用ス  
發行所ヨリ四方二十英里乃至五十英里外ノ村落ノ人

民中ニ其紙幣ヲ流通スルカ如キ銀行ハ發行所タル市  
府内ニ多ク其紙幣ヲ流通スルカ如キ銀行ト大ニ其情  
勢ヲ異ニス如何トナレハ斯ク發行所ヨリ遠隔ノ地  
ハ通運ノ便ヲ欠クヨリ交換ヲ停止セントスルカ如  
災害ノ警報達スルヲ甚タ緩慢ナルヲ以テ從テ恐慌騷  
擾ヲ生スルヲナク而シテ銀行ニ小紙幣ヲ送致スルノ  
費用却テ其紙幣ノ價直ニ均シク或ハ超過スルヲアル  
ナリ然レモ市府ニ至テハ全ク然ラス一鐘ヲ撞キ鳴ラ  
セハ全府ノ人民同時ニ市街ニ集マルカ故ニ災害ノ警  
報ハ傳達スルヲ極テ神速ニシテ恐慌騷擾ノ傳達警  
ハク劇烈ニ置郵傳命猶ホ三舍ヲ避クル想アリ  
然リ而シテ貨幣準備金ノ論題、既ニ上文ニ開示  
如ク純然銀行論ノ論領ニ屬スベクシテ本論即チ交換

紙幣論 = 於テハ余輩之レヲ詳論スルヲ要ヤザルナリ  
何レノ國ヲ問ハス其國內ノ銀行ハ皆ナ其紙幣登イ高  
ハ三分ニ乃至五分三ノ準備金ヲ豫備スルシ然ルレハ  
要求ニ應シテ其紙幣ヲ交換スル能ハサルノ憂ヲ免カ  
ルベシ然リト雖モ其銀行ハ皆ナ謹慎ニシテ過度ニ紙  
幣ヲ發行スルヲナク以テ紙幣濫溢ノ惡結果ヲ社會ニ  
蒙ラシムルヲナカルヘキ乎如何ニ至リテハ又タ別ニ  
一種ノ論題ニ屬スルナリ之レヲ約言スルニ準備金ノ  
論題ハ銀行ト其銀行紙幣ヲ所持スル人々ノ利害ニ関  
スルモノ、問題ニ外ナラスト雖モ一般社會ノ利害  
論議スルハ此ト異ナリ全ク別種ノ問題ナリ  
言詞、近代ノ意義ニテ銀行紙幣ハ瑞典ニ發行セシモ  
ノヲ以テ嚆矢トス一千六百六十八年ニ於テ瑞典銀行

トナリシ銀行ハ一千六百五十六年バルムストラク氏  
ノ始テ設立セシモノナリ一千六百五十八年於テ始  
テ銀行紙幣ヲ發行ス是レ英國銀行ノ設立ヲ許可セ  
ヨリ殆ント四十年前ニアリ

バルグラフ氏著ス所ノ銀行論第八十七葉ノ註解ヲ  
見ルベシ



